

教科書展示会実施状況について（最終）

○ 閲覧者数及び意見書件数

展示期間	会場	閲覧者数	意見書
6月2日（金） ～7月5日（水）	京都市総合教育センター	72人	30件
	右京中央図書館	57人	24件
6月2日（金） ～6月9日（金）	中央図書館	5人	2件
	京都市生涯学習総合センター山科	8人	4件
	左京区図書館	18人	15件
6月14日（水） ～6月21日（水）	伏見中央図書館	9人	6件
	東山図書館	3人	1件
	吉祥院図書館	5人	4件
6月25日（日） ～7月2日（日）	醍醐中央図書館	10人	11件
	北図書館	20人	15件
	洛西図書館	18人	14件
合計		225人	126件

※閲覧者数は、閲覧者名簿に氏名を記入した人数。

※京都市総合教育センター、右京中央図書館では、高等学校、総合支援学校用及び育成学級用教科書も展示。

○ 意見書の分類（※1つの意見書に2つ以上の分類あり）

①教科化への不安や疑問等	45件
②教科化への期待等	18件
③特定の教科書、教材への意見	86件
④指導方法や学習方法への意見	20件
⑤その他	45件

【参考】 22年度小学校教科書採択 来場136人 意見 16件 (6/4～7/7)
 26年度小学校教科書採択 来場108人 意見 57件 (5/30～7/2)
 23年度中学校教科書採択 来場488人 意見256件 (6/3～7/6)
 27年度中学校教科書採択 来場499人 意見317件 (6/5～7/8)

教科書展示会の意見書 (原文のまま転記)

＜総合教育センター＞ 全30件

- ① 道徳は1人1人の心のことを取り扱うわけであるので決して押しつけになってはいけないと思います。今日は時間の関係で全社の一年生の教科書のみを見せてもらいました。全体的な印象としては、1年生だからなのかもしれませんが、礼儀やあいさつ（とくに「ありがとう」）が強調されているように感じました。とくに光文書院の「スポーツとおじぎ」が心をこめたおじぎとか1年生にわかるのかと思いながら見ていると、教育出版社のものは、おじぎのしかたまで書かれていて、みんなが、正しいおじぎのしかたを身につけることが求められているのは、かなり違和感を感じました。あと、節度節制で、あれをしてはダメこれはダメ（ずるはダメとかまねっこはダメとか）きまりを守るための規制 自律をうながすことになるのかなとも思います。もっと子どもの権利みたいなこともあってもよいのでは？外国のお友だちのことが書かれているページは、子どもの世界が広がる材料になってよいと思いました。教える立場として、ワークや作業ノートがついているものは、それにしぼられるので使いにくいと思います。（ないものの方がよい）道徳なので、子どもの自由な発言（不規則という意味ではない）、活発な発言や活動を保障すると言いつつも、お話の前にめあてがはっきり書いてあるものは、結局こういうことを言えばいいんだと誘導していて、先が見えていて、結局価値の押し付けになってしまうのではないかと思う。その点では、学研の教科書が、いちばん短くて、ましのように思います。（「わたしのこと」とか「あなたとわたし」とか…）国語科で光村のものを使っているの、なじみがあるように感じました。また、他の学年の分も時間があれば見に来たいと思います。
- ② 子どもが今1年生なので、来年習うことになるかもしれない2年生の道徳の教科書を見せていただきました。道徳が教科化されるということで不安があります。廣済堂あかつき出版の冒頭“どうとくの時間はこんな時間”の中で、「かんじること、考えることは人それぞれちがいがああります。いろいろ答えがあつてよいのです。どうとくの時間は一つの正しい答えやよい答えをさがす時間ではありません」との記述があり、こういった内容が全ての教科書にあればよいのにとおもいます。ただ、この出版社の付属のノートでは、項目ごとに顔のマークで自己評価する欄があり、また、目標の記述が押し付けになっていないか疑問です。どの教科書もですが、文末の設定問の設定のしかたで、ある程度こたえが縛られていると感じます。特に気になるのは、教育出版の“しりょうのページ”“みにつけよう礼儀マナー”です。冒頭の「どうとくの時間がはじまるよ」では、「みなさんが大切にしている気持ちや考えをはっぴょうし、友だちのかんがえを聞いたり…」とあるのに、何の根拠もなく唐突に公共マナー（とされるもの）や国旗・国歌に対する態度が規定されていて、非常に強い違和感を感じます。道徳のねらいが教科書にある言葉を借りれば「よりよく生きるため」「もっとよい自分になるため」という、ある意味主観的な個人の価値観に関わってくるようなものであるだけに、より一層慎重に、科学的な根拠や世界的な人権意識などに基づいた内容を目指していただきたいと思います。
- ③ 良いと思った教材、光村の「世界人権宣言から学ぼう6年」、「差別のない社会を目指す6年」、「だれもが幸せになれる社会5年」で、ハンセン病の山内きみえさんが載ってて良かった。良いと思った教材、東京書籍6年白旗の少女も良い。良くない教材、あかつきノート6

年・自律的で責任ある行動を・誠実に明るい心で・節度を守り節制に心がけて・短所を改め長所をのばして・より高い目標に向かってくじけずに・真理を大切に探究心を持って、こんな事を押しつけられたら子どもは苦しいです！！光文書院1年ぎんのしずく、母親のいない生徒はどう思うか？教育出版2年「国旗・国歌を大切にする」は様々な国籍の生徒がいますし、国旗に対しての礼の仕方が書いてあるのは問題だと思います。戦前のような国旗・国歌への態度を「愛国心」の具体化とするような授業や指導が広がれば子どもの国家への一体感を育成してしまうこの教育出版2年はいき過ぎだと思います。

- ④ 子どもたちの道徳心を養うのに教科として勉強することはとても良いと思った。見本本では日本文教出版が良いと思った。
- ⑤ 子どもが2人います。まだ小学校に入っていないんですが、興味があつて展示を見にきました。どれもカラフルで楽しくなるようなものばかりです。ただ、教える人（教員）がしっかりしないと駄目な気がします。「教科」になれば、もっと内容が充実すると思います。評価も、子どもを励ますものであれば、子どもたちも嬉しくなつて、他にも良い影響が出ると思います。社会の宝の子どもたちをよりよく育てるため頑張ってください。素人の感想として、日文、光村が絵も豊富で見やすかつた。学研は重たかつた。
- ⑥ 児童にとって良い方向となりますよう祈っています。教科になれば、もっと道徳が大切にされることでしょうか。どの教科書が良いかわかりませんが、特定の価値観を押しつけるようなものはさけて下さい。よろしくお願ひします。
- ⑦ 時間の関係で6年生3社のみ拝見。東京書籍は防災が2本と東京大空襲1本と暗いイメージです。どれか1本で良いのでは？巻末の伝統文化のところ京都の文化に触れていないのも残念。教育出版社は逆に防災教材無く不思議。しかし、山中伸弥先生の京都市名誉市民受賞スピーチや西陣織の歴史と京都を取り上げてくれて嬉しい。光文は、防災教材がちょうど良いと思いました。おにぎりの話とても良いです。ただ、東京書籍と同様に伝統文化のページを設けているのに京都に関する記載が無く、これも不思議です。伝統文化といえば京都と思つてしまいますが…。
- ⑧ すべての教科書がきれいで見やすかつた。子どもたちがこの教科書で学べば、日本を背おう人材に育ってくれると希望します。
- ⑨ 光村図書の6年生の教科書に世界人権宣言がのつているのがすばらしいと思いました。「差別のない社会を目ざす」の教材で、「日本にいて差別を感じる時」を外国人の立場から考えさせる視点も大切だと思います。全社の1年の教科書にのつてしまつていますが「かぼちゃのつる」で、かぼちゃがとなりの畑に伸びていくのを「わがまま」と評しているのはおかしいですね。かぼちゃは日当たりのよい方向に本能で伸びていくものであつて、擬人化
- ⑩ 教科書より、教員一人一人がどのように教えていくのが大切。研修等で指導の力をアップしてください。教科化には基本良いと思つています。
- ⑪ 教科書をまじまじと見る機会なんてないので新鮮だつた。対象の年齢の子ども達のことを

よく考えて工夫されていることが分かった。

- ⑫ 小学校道徳教科書6年生用を中心に意見を書きます。1. 教育出版6年「祖国にオリンピックを」(p58～p62)すでに16年前に亡くなった人物と2020年オリンピックを無理に結びつけている。偏向してる。日本文教出版「東京オリンピック、国旗にこめられた思い」p42も同様。2. 「野口英世」p102と母の言葉に「日の丸」は関係しないのにp106の絵は強調しすぎ(教育出版)学研「チョモランマ」p22の写真も同傾向。3. 教育出版「新渡戸稲造」p88「武士道」が日本人の心を表現している(判読不能)のは偏った見方で憲法精神、教基法「人格の(判読不能)成に反する。学校図書「人間をつくる道」一剣道も同様の傾向がある。4. 学校図書「小石丸がつなぐ千年の糸」p44正倉院の宝物は数多いその中で皇室とつながりのある話だけとり出すのは偏っている。皇后の行為は国事行事でも公的行事でもないものだ。5. 光文書院「これが日本」p1068つあげられているが何の根拠であげているのか?現代の日本にはもっと良さもあるし、矛盾に満ちた「子どもの貧困」や「格差」の問題も深刻。良い面、悪い面あげるべき一面的。6. 子どもの書いた文としているが、どうみても表現が大人の作であり、ウソを与えてはならない。学研「その思いを受けついで」p40「こみあげる悲しさに声を上げてないた」「言い知れぬ不安がおそった」など。7. 人間の自由を「わがまま」「責任」すり替える傾向がある。あかつき出版「自由だからこそ」p36日本文教出版「ほんとうのことだけど」p14東京出版「修学旅行の夜」p76憲法精神とちがう「自由」「責任」。8. 評価の数値化につながる危険性 心の矢印光文書院巻末②。9. 日本文教「税金ってだれのため?」p151政府の納税の宣伝。子どもの道徳と関係ない。10. 「いじめ」や「友達関係あげているが、大人の文で本当の子ども声、文でない。光村p124。☆いい教材も少ないがある。光村p15「世界人権宣言33条、東京書籍p29「白神山地、自然保護」p29インターネット上の権利、著作権、肖像権、プライバシー光村157。教育出版広島原爆の子の像」p184 東京書籍「東京大空襲の中で」p150もいい教材だ。全体に現行の「私たちの道徳」文科省副読本にしばられている。教育出版の教科書は「オリンピック」「日の丸」「武士道」等強調され過ぎ。採用しない方がいい。「伝統・文化」にこじつけて偏狭な愛国心をあおっている。
- ⑬ SNSで道徳の教科書への懸念を目にし、また、昨今の政府の教育勅語発言をきき、自分の目で確認しようと思いました。全社全教科書を拝見しましたが、大変多様な視点で、丁寧に編集されており、安堵しました。今の子どもたちの環境に根ざした倫理(いじめ、SNS、人との関わり)などを涵養することは大切なことです。教科化、成績評価ということで、おそらく戦前の修身と結びつけて不安になる方たちがいるのもとてもわかります。今の教育再生実行会ギは文科省や中教審、各地域の教育行政のすばらしい実践をないがしろにしています。だからこそ、逆手にとって、よい教科書を作ったという編集者や先生方の矜持を感じました。現場や地域の教育をとり戻す。私たちにはその力があるのだと思います。また、光村図書など、絵や、編集のクオリティーも高いものと感じました。
- ⑭ 6年生道徳を中心に閲読しました。そもそも個人の内心の領域を扱う道徳というものを教課にすることは是非がはっきりしませんが、仮に是とすれば、一人一人の個人が、それぞれ尊厳をもつこと、自由と権利をもつこと、それを達成する限りにおいて権利を制限するルールが存在しうること、を内容とするという限りで是とされるものと思います。いずれの教科書も全般的にはそのような方向に沿っているのではないかとは思いました。自国の文化だけ

でなく他国の文化も尊重することの大事さを訴えているもの、世界人権宣言を（判読不能）位置づけているもの。第2次世界大戦を差化せずに戦争の問題点を（判読不能）しているもの、等がみられた点は良いと思いました。他方、戦前の時のように、滅私奉公につながりうるかと感じた部分（学校図書―活動P 6, 52等）、市民、国民が守る法のみが強調され、国家権力側が守る法についての（判読不能）について（判読不能）ていない部分（廣済堂あかつき―ノートP 28, 32, 同, 5年P 22）については疑問も残りました。道徳教課が今後も続くという場合、これからも教科書展示会には参加しようと思います。昨今、「天皇に何かあれば、命をさし出して守る。」ということが中心的特色となっている教育勅語の（判読不能）ます。（判読不能）っても、道徳教科においてそのようなことがもちこまれることのないことを願います。

⑮ どの会社の教科書もよく工夫されていると感じた。その中でも各社にそれぞれのカラーがあり、興味深かった。（あかつきと光村は国語の教科書のようにも感じた）教科書を展示することはとてもよいこと。これからも多くの場所で展示を続けて欲しい。

⑯ 教育出版の小学2年の教科書の最後のページに国家・国旗についてのページがありますが、他の教科書にはなく、国旗・国家に対して、「き立、しせいをただしみんなでいっせいに歌う」と気持ちの押しつけととれる指導が書かれています。この本は使用してほしくありません。光村図書の教科書は表紙に副題が書いてあり、（たとえば2年生ではきみがいちばんひかるとき）好感が持てます。p 104, 「どうしてうまくいかないのかな」を読んでいくとうまくいなくても、一生けんめいにがんばる姿を見て、おじいさんは今のままのみきが好きと」いい、より、自分のことが好きになったという話で、いいのではないかと思います。

⑰ 光村図書6年生「世界人権宣言から学ぼう」「持続可能な社会とは」「差別のない社会を目指す」（夏休みに調べてみよう）等とてもいい内容ととらえた。教育出版2年生最後尾に国旗・国家を大切にすることがつけられているが内容に問題点を感じました。この内容が入れてほしくないと思いました。

⑱ どうとく1年生の教科書をみせていただきました。子どもは失敗をくりかえしながら成長するものなので正しいことをして教科書で教えこむことに不安があります。又どの教科書にも出ていたかぼちゃのつるのお話はかぼちゃの植物の特性など無視し擬人化してわがままはよくないと教えたいのしょうが気になりました。又1年生におじぎの仕方など形をおしえる必要があるのでしょうか（教育出版）自分の頭で考えさせ、他の人の違う答も何故なのかがい認め合う関係を大事にする1人1人みんな大切な人間、表面だけ見て決めつけるような道徳にならないようねがっています。

⑲ 教育出版の「道徳」は、しつこいぐらいにおじぎの仕方がのっていて疑問に感じた。又国旗・国歌についても意見が分かれている問題なのに肯定したものとしてのせているのはどうなのか。すべての出版社に言える事だが「平和」や「憲法」についても記述がないのが残念。タブーな分野なのか、小学生には理解しにくい問題だと思っているのか。廣済堂あかつきのテーマ「みんなでかんがえ、はなしあう」は好感がもてた。

⑳ <教育出版小学道徳5年> (p 141) 下町ボブスレーの記事の最後、何故安倍首相の写

真が必要なのか。現在の政治家は掲載すべきではない。＜教育出版小学道德2年＞（p 114）せかいの人たちに親しむ。オリンピックのひょうしょうしきは国旗・国歌とは限らず、地域やグループもありますので、そのことを知らせるべきではないでしょうか。＜教育出版小学道德3年，6年＞（3年p 82）（6年p 71）3年，6年と西郷隆盛の記事が掲載されているが、西郷は征韓論が根本にあり、決して道徳的とは思えない。

- ⑲ そもそも道徳を教科化して評価の対象にさせることが大きな間違い。法や決まりを守らない現政権の道徳心を改める方が先。特に教育出版2年生p 114の“国旗と国歌” p 130 “国旗・国歌を大切にする”は低学年の心に日の丸・君が代を刷り込ませるヒドい箇所。なぜ日の丸・君が代に抵抗感がある国内外の人がいるのか、その経過が全く書かれていない。同じく5年生p 141 “下町ボブスレー”に唐突に出てくる安倍首相の写真、意味がわからない。教育出版の教科書は採決しないで下さい。1年生，一おじぎの仕方まで格一化しないで下さい。教える方の先生の苦労も思わずにはられません。
- ⑳ 教育出版の2年生見本で、わすれ物の多い子どものお話や、ゲーム依存のお話、漢字を好きになるお話などは、それ自身としては問題ないが、なぜわざわざ「道徳」という教科の中でこうしたテーマを取りあげるのかその意図が不明です。それぞれはメディア、ゲームリテラシーや、国語の授業の中で教えていくべき内容であり、「道徳」という学問性のない教科、科学に裏打ちされていない教科は必要ないと考えます。同様に、西郷隆盛のエピソードは社会科の人物エピソードの中で、「花さき山」は国語の教科の中で教えていけば「伝統野菜」の話も、京都では総合的学習でとりくまれており、わざわざ道徳の教科の中で「国や郷土を愛する」というくくりの中で、学ばなければならない必要性は一切ないと考えます。
- ㉑ 光文書院の1～6年生までざっと目を通しました。3年生以上については「ゆたかな心」というテーマにふさわしいような、実在した人たちの生き方や、生命の尊さや平和の大切さにせまることのできるよい読みもの教材が多く、すっきりとしたわかりやすい編集です。＜違和感を覚えたこと＞◎低学年とくに1年生は、子どもにたいへんわかりにくく抽象的な文章。徳目注入主義的記述。教科書作り自体に無理がある。⇒いけない！◎6年生「地球が危ない」自然破壊につながる人間の行為が挙げられているが、今の時代、原子力発電所、核兵器などに全く触れないのはきわめて意図的なものがあると感じた。世界文化遺産の紹介の中、とりたてて厳島神社のことを書いてあるのも納得できず。
- ㉒ 「道徳」の6年生の教科書をみせていただいた感想として「道徳」という教科をあえてつくらなくてもよいと思われる記載が多いと感じました。たとえば、教育出版の6年生のけい帯電話の使い方や情報については、別の形でリテラシー教育ができるし、むしろ道徳以外のところで、科学的に教育すべきと思いました。地震についても然りで、「道徳」の教科書ではなく、きちんとした防災教育を別にすべきだと感じました。集団の中で役割を果たすことや、短所を改め長所を伸ばすことなどは、日常の生徒指導の中でされるべきことで「道徳」の教科書で扱わなければならないことではないと思いました。
- ㉓ 光村の5～6年の教科書を読んで、「世界人権宣言」や持続可能な社会とは？いじめについて、インターネット上の権利、キング牧師を紹介しながらの差別のない社会、「地球温暖化」「子どもの権利条約」などについて紙面をさかれています。その記述自体に問題はないが、

そもそも「道徳」というものを教科化して、「自分の心の中にある考え」を評価していく必要があるのだろうかと思いました。学問やかかぐに基づくことのない「心の問題」を検定の教科書にし、ましてや評価をとまなう教科化をすべきではないと考えました。

②⑥ 主に6年の教科書を見ました。他の学年も含めてA自分自身のことB人と関りについてC集団や社会との関りD生命や自然「崇高」（あえてひつようか）なものとの関りにそってさまざまな教材をとりあげており、共通する教材についてもとりあげる視点がちがうと変わってくるのを感じた。道徳とはという中に考え方はさまざま、正しい答えやよい答えを見つける時間ではなく自分を見つめるためのものと明記しているが、かなり子どもたちをいわゆる道徳的な考え方に導こうとする傾向も強いと思った。単元のさいごに子どものふきだしの声として例をあげているのはよくないのでは…自分たちで自由にまちがっても思いをだしあうことができるふんいきが大切と思う。心の中のことをさらけださせ、評価する教科化そのものが問題だと思う。また少なくない教科書で「演じてみる」「動いてみる」として実際に役割を与えてやらせてみるというのは非常に問題ではないかと感じた。世界の流れ、子どもの権利条約や宗教をこえてつながるヒューマニティ、環境問題などにふれている光村、廣濟堂あかつきの教材は大事なことにふれていると思った。また現代の子どもに対してインターネットのこと、いじめのこともしっかりと書くことは大切と思った。ほんとうの自由とはについて子どもたちがしっかりと考え話しあえるようになってほしい（わがままではない）税金の使い方についてふれているのはとても大切なことと思ったが、納税の義務ばかり強調して使われ方についても目をむけていく方向性も大切と思った。

②⑦ 教育出版の道徳2年「国旗・国家を大切にする」「内心の自由」と言いながらこれでは押しつけに思える。子どもが卒業式の練習で何度も校長先生から「もっと大きな声で」と言われてイヤだったと言っていた。教育出版の道徳5年「下町ボブスレー」差しこみの写真がどうして安倍首相なのでしょうか。変わるかもしれないのに。光村図書6年「世界人権宣言から学ぼう」大切な権利として世界人権宣言を紹介しているのはすばらしいと思います。

②⑧ 教育出版の小学どうとくは採択しないでください（理由）2年「国旗や国歌を大切にする」の気もちのあらわし方「き立して国旗にたいしてしせいを正し、ぼうしをとってれいをします」は愛国心の押しつけです。教材としてふさわしくありません。

②⑨ 別冊のノートはどれも文章で記入する箇所が多く書くことが苦手な子どもは道徳が苦痛になるのではないかと思います。「かぼちゃのつる」など科学的でなく、こんな教科書で教えてもらうのは問題があると思いました。

③⑩ 一番よいと思ったのは、光村図書の6年生、世界人権宣言から入っているところが、これからの国際社会を生きぬいていく子どもたちには必要なことだと思った。教育出版、日本文教出版、学研などの6年生の読みものがあまりにも同じようなものばかりで型にはまった人間をつくってしまうのではないかと考えてしまった。ロレンゾの友達、青の洞門、ブランコ乗りとピエロなど。道徳は教科ではなく、「道徳の時間」として、自分の意見や考え方、社会の見方など、みんなで話し合うことが大事ではないでしょうか？評価をするものではない。現時点での国際的な人権意識を身につけることこそ重要です。

<右京中央図書館> 全24件

- ① お話を通して自分のおもいや考えを交流することは良いと思いますが、道徳という教科として評価する事はしてはダメだと思います。心の中まで入りこむそしてどんな基準で内心まではかるのでしょうか。私はこのことには反対します。
- ② 道徳を教科書を使ってしっかりと勉強すべきである。
- ③ どの教科書も子どもが興味を持ちやすくなる工夫がされていると思いました。どのような授業が行われるのか楽しみです。
- ④ 道徳教科書の内容を読ませてもらいました。いろいろなお話のあと“あなたはどう思いましたか？”と自分の意見を記入する欄がありますが、決まった答えは（正解）は無いのではと思います。これを評価するのは難しすぎると思います。すべての子ども達がだれにでもあいさつをし、いつもニコニコしている社会…あまりにも現実をみていないのではと感じます。そういう社会を作っていくのは大人の役割なのでは。
- ⑤ 新しい教科書で楽しく道徳を勉強してほしい。日本文教出版という会社が良さそうに思った。
- ⑥ 道徳を教科にし、評価することには反対です。道徳は人の心の内面に関することで、人それぞれの環境や考え方など違って当然のことなのに、これに対して、評価され、成績がつけられるということに違和感があります。「こう書いたら先生は（親は）喜ぶだろう」と表裏の評価しなければいけない先生も大変だと思います。いろいろな意見や思い、自分だったら…といろいろな議論することはいいと思いますが、1つの形に価値観をあてはめてしまうのはおかしい。別冊で子どもに記述させるのが多いけれど、「お母さん」や「幸せ家族」みたいな内容の話などについていろいろな状況の家族、シングルなど、様々な境遇の子がいるなかで、考えて、書かせるのは残酷だと思います。
- ⑦ 来春、息子が小学1年生になります。道徳が教科になる＝評価されるということが心配です。大人の顔色をうかがって「良い子」を演じるような子に育たないか！？という不安です。おしつけるのではなく、まずその子をありのまま受け止め、「みんな違ってみんないい」という教育をと願っています。
- ⑧ 色々な教科書が考えられているのだなあとと思った。子どもにとって良い教科書で学んで欲しい。
- ⑨ 廣済堂あかつき2年生の道徳のひっこしの手伝いにきた友人にケーキをどのように分けるかという話は正しい答えなどないと思います。これで成績をつけられるのは酷ではないかと思いますが。
- ⑩ どれが良いのかはよくわからないので、しっかりと教科として勉強できる教科書を使ってほしい。

- ⑪ 小学校で道徳が教科になることでどのような教科書が作られるのかと拝見しました。いろいろな目標をもって集められているお話や小説等でわかるものもありますが、なぜこれがこの目的のために使われているのかわからない、というものもありました。公平さや正義など一率の答えはだせない—大人でもそんな場面がたくさんあります。道徳の成績が決まった答に対する正解を求めるのであれば人間の成長にとって有害になることもあるのではないのでしょうか。社会のルールや人間の尊厳を身につける授業にできるのか、とても疑問です。各教科書全てに目を通すことはできませんでしたが、数冊拝見し、今回の機会を利用して現物を見ることができてよかったです。ただ、教科書展示のしかたがオープンでなく、施錠されていたことには疑問を感じ、図書館らしくないと思いました。
- ⑫ 教科になることに大賛成です。今の子どもたちには、勉強よりも徳目が大切。これを契機に、道徳教育が充実されることを願います。光文書院、あかつき、日文が良いと思いました。
- ⑬ 話し合い、問題点に気づいたり、自分の意見を意図、持つということはとても大切な基本的な力、権利だと思います。しかし、それを強制されるのは、反対におかしいことだと思います。道徳（でなくても、すべての教科や読書、生活を通して）を通して考えたことを表現するまでは、まだわかりますが、それを評価するというのはおかしいことだと思います。評価（たとえ否定されなくても）よいと思われる作文を書いたり発表したりするおそれがあると思います。外と内とを分けるような生徒をつくるようで恐いです。いじめのあらたな温床になる可能性も…
- ⑭ 賛否はあると思うが、教科化されることで各社から工夫を凝らした教科書が出され、現場での実践も深まるのだと思う。
- ⑮ 話題を提供し、自由に子どもたちが話し合えるような、そういう内容であってほしい。あまりにも固苦しい行儀作法にこだわる必要はあるのか（特に教育出版）押しつけがましい「まとめ」は必要か？目的を過大に盛り込むことなくのびのびと楽しく考え合える時間であってほしい。
- ⑯ 学校図書の本は別れている意味がよくわからない。光村図書は絵がよかった。遅くまで開いていたので仕事帰りに見られてよかった。先生が使いやすい本を選べばよい。
- ⑰ 一年生の子どもたちに書かすには、どうとくノートはあまりにも書くところがいっぱいある様に思います。子どもたちの自主性をのばすための道徳であってほしいと思います。日本人だからこんな考え方をしなければいけないとか…。今の時代母子家庭や父子家庭の子がクラスに何人かはいる事があたり前。出版社によってははいりよがない物があつたと思います。
- ⑱ 今は道徳でどんな事をしているのか、わからないがこの本を読みかながえるのも良いが書く事が多いと思います。むかしの事をお年しよりの生活でまなぶ事はあると思います。
- ⑲ 小学校道徳教科書を読んだ。従順で人の言うとおりの素直な「よい子」の話ばかりだ。自分の頭で考え、批判精神をもつ子どもには育たない。現実生活とはかけ離れたものが並ぶ。現実の子どもをリアルにとらえていない。せまい愛国心をやんわりと押しつけている。やれば

できる、できないのはあなたの努力が足りないからだ、と「自己責任論」で子どもを追いつめている。「道徳は教科にすべきではない。道徳教科書はつくってはならない。

- ⑳ どうとく1年生を見て毎日の生活に必要なあいさつなどは良かったですが、「かぼちゃのつる」の話では、答えは沢山あると思います。子供達の答えに点数がつく様な教育はしてほしくありません。教室の中でみんなが自由に発言し、お互いをみとめ合う気持ちが育つ授業にしてほしいです。子どものすなおな気持ちがゆがめられない事をのぞみます。
- ㉑ お話をきっかけに、自分の思いを出し合ったり、考え合う時に、ひとつの答、正しい答に行き着くような誘導をしないようにしてほしいと思いました。優等生の話にのれない子ども達がツラくならない、家庭の思いも排除せず、聞き合う共生の力を育ててほしいです。偉人の話もいいですが、何でもない人の共生力に気づいてほしいです。日本の子どもは社会的な人権や、主権者としての意識が低いと指摘されています、生きていく力としてそこを育ててほしい。そして地球規模に自由を考え、意見表明できる力を育ててほしいです。
- ㉒ はじめて読みました。道徳が教科になるという事で、関心をもちました。自分や相手を大切にするという内容は共感できますが、教科となると評価の対象となります。先生方はどういう評価をつけるのでしょうか？孫が小学生になりますので、気になりました。
- ㉓ 1年生の教科書を中心に見ました。(来年、孫が小学生になるので)どの教科書もイラストや写真が多く子どもが楽しく学習できるのではないかと感じました。道徳は人として大切なことを学ぶことができる時間です。子どもにとってよりよい教科書を選んで下さい。個人的に足が悪いので近くの図書館でみる事ができてありがたかったです。

行政区：右京区 年齢：72歳

- ㉔ 各出版社の本を比べて見ました。本のサイズは大きいと開けにくいかなと思います。(高学年になればいいかもしれませんが…)特に目をひいたのはやさしい印象の表紙の光村図書さん。京都市ではとても長い期間、国語の教科書でもお世話になっていて、発達障害(LDの子)の子達への教科書作りも積極的にされていることをとても評価しています。内容もシンプルでわかりやすく、考える事、そして気持ちは人それぞれであること、気持ちには正解がないことを大切に取扱われている印象を受けました。32ページ、79ページ、120ページにある顔マークでの表現は発達障害の子達の気持ちをあらわすのに使われているもので、わかりにくい子へのやさしさを感じました。子供達へなげかける→考える→気持ちを出すと言う段階を細かくふんでおられるように思います。先生側にとってもわかりやすく教えやすいのではないかなと思います。ヒント！！が書かれているのがとても良いです！！こころん、きらりんの一言もステキ！！学校生活の中で先生たちは子供達に「相手の嫌がることはしない。」と教えます。それに子供達は一生懸命しますが本当に子供達は理解しているのでしょうか？。自分を大事にされる経験もなく、人の気持ち、人の気持ちと押しつけるけど人の嫌がることも人それぞれなんですよね。ここまでなら我まんでできる、沸点も人それぞれなのに勝手に気持ちを押しつける。先生、大人の自分の経験でしか物言を考えられない人が多すぎるので先生たち用の道徳の本を出されてはどうですか？？子供達の大事な人生に関わる仕事をしていることを重く受け止めてほしいと思います。

＜中央図書館＞ 全2件

- ① 「道徳」の授業は現在もあると思うのですが、教科書を使って、どのように授業をされるのか気になって来ました。孫が小学校3年生なので、主に3年生の教科書を見比べました。比べてみると、出版社により導入の仕方や、使っている写真などの違いがよく分かったように思います。「道徳」というのは1つの答があるものではないと私は思っているので、それぞれの子供たちが、どのように感じ、考えるのか、自由にのびのびと表現出来るような授業を進めて欲しいと願います。そのような方向の教科書を選定される事を望みます。気になったこと…「どうとくてきなおこない」(教育出版社)、国旗・国家の使い方(オリンピックと合わせて)(教育出版社)、二宮金次郎の写真(今の子どもたちは多分知らないと思う)(教育出版社) ひとつの答をみちびき出そうとしないか心配です。先生方はこれをどのように評価されるのでしょうか？

- ② 今年度から教科となった道徳教科書について出版社がたくさんあり同学年をくらべてみました。教科となり教える内容が決められた中で同じような中身になってますが、出版社によって押しつけようとしている思いがとても出ているのがあります。教育出版の二宮金次郎が出ていたのにはおどろきました。又、いじめ問題や個人情報等現在の問題点を使って現わしています。国や郷土を愛す事にも押しつけはよくないですね。

＜京都市生涯学習総合センター山科＞ 全4件

- ① 道徳が教科になるときいて「教科書」をみさせていただきにきました。私は学校というところは、色々の考えがあることを教えるところだと思います。(もちろん数学の称に答えが一つというのはありますが。)それが、教科になるということは、「成績」がつくということで、何が正しいかわからないことに採点することにとっても疑問をおぼえ、何か又、ちがった方向へ子どもたちをむかわせる様で、ちょっとこわい気がします。

- ② インターネットの使い方などが入っているかと思い読んでみた。日本文教出版、6年生P54のお話は、あまりに現実的でない。まず母が形態を無制限で渡すところからおかしい。娘が自分から返す、というのは大人の願望のみでできた結末だと思う。しかし、次の頁のチェックシートは、子供もわかりやすいと思った。光村図書、人権侵害だけでは足りない(内容が)と思う。学校図書、6年でインターネットが1頁は少なすぎる。学研、わかりやすいが、この糸口で先生が話を深めにくそう。

- ③ ①まずは、「道徳」を時間をとって“教科”として学ぶ(評価もする)ことの意味が分からない。心の成績は、はかれないし、ましてや1年でどれだけ成長したかはかえるのは不可能に近い。その時その場などに応じてHRで話し合う方がよい。②教材は、ほとんどがアスリーのサクセスストーリー、歴史的人物の偉人伝(二宮金次郎が出て来てびっくり!!教育勅語の生きていた戦前でしょうか?!)になっているが、こういうものは使い方がむずかしいと思う。(時代背景をとらえて)歴史の中に位置づけて理解するなら社会科の中で、文学教材なら国語の時間に時間をかけてあつかう方が理解したり、味わったり、話し合っって深めたりすることが可能になると思う。「先に徳目ありき」で、それに当てはめた教材を無理して並べているような感じがする。③子どもを、一定の方向に知らぬ間に導くような“しくみ”が(すけて)見えて、ちょっと怖いと感じた。これを使わねばならない先生方にも同情してしまう。

- ④ 道徳の教科化で子どもが考える時間ができる事は良いと思いました。子どもの権利条約も学ぶ事はとても大事だと思います。

＜左京図書館＞ 全15件

- ① 教育出版の教科書について、目次に「国や郷土を愛する」と明記していることに違和感を覚えます。何を愛するかどうか、または、どのように思うかは、個人の意志が尊重されるべきだと思います。そのような観点から、「国や郷土を愛する」という記述の削除を求めたいと思います。

- ② 道徳を教科化することには反対です。廣濟堂あかつきの「道徳」を見てみました。松岡修造さんの文章は大切なことを教えていると思います。子どもたちにありのまま自信をもたせ、「自分はダメだから変わらなければ」と思うように追い込まない。P16メールのつかい方、具体的です。P20ヤリガンナ自然と伝統の技に尊敬の念がわきます。スポーツ選手の偉業の話は励みになる場合もあるが、みんながそんなに頑張れるわけでもないし退いてしまいかも。P38負けましたと言う勇氣、P64下山する決意など冷静で大切な判断の大切さがわかる。P66車いすの少女、大いに違和感あり。障害者は（だれでも）誰かに頼って生きています。この話を読んで困難をかかえた人を素直に助けようとする心をくじかないか心配です。重大な問題です。P129「日本人が受けついでた心も、他の国が大切にしてきた心も、どちらもすばらしいのだ。それぞれの国で、歴史や文化のちがいがあっても、その根底にある人間としての心は通じあう」という文章、「日本だけが」よいとか伝統だとか強調されるキラリのある中で、ひかっている。教科化したら「評価」がついてきます。子どもたちはあざとく「正解」をかぎとって先生の気に入る「正解」をかくと思います。うそつきを育てることになります。

- ③ たくさんあって全てに目を通すことはできませんでしたが、たまたま手にとったのは日本文教出版と廣濟堂あかつきの6年生版でした。日本文教出版の“税金ってだれのため？”のページには違和感を覚えました。たしかに納税は国民の義務ですが、世の中には払いたくても払えず辛い思いをしている人もいます。そのような家庭の子がこのページを読むと、一層追いつめられた悲しい気持になるのでは。日本文教出版には“日本人の受けついできたもの”“誇り”のような文章がいくつかみられましたが、私はこのような視点よりも、廣濟堂あかつきの中の、新渡戸稲造についての文章で「日本人が受けついできた心も他の国が大切にしてきた心も、どちらもすばらしいのだ。それぞれの国で、歴史や文化のちがいがあっても、その根底にある人間としても心は通じあうものではないか」—こちらの視点こそ、21世紀に子どもたちに発信、考えてほしい視点と考えます。また、“道徳のノート”はどの社にもついているようですが、必要ないと思います。道徳を「教えこもう」としても無理があるし子どもの発達にゆがみがおこることもあると思います。（そもそも私は教科化には反対です）

- ④ 1年生向けと6年生向けの教科書を見ました。低学年向けはあいさつや人に対して嫌な事をしないなど基本的なものがおもなのかと感じました。確かにまだ幼児の延長ぐらいに感じる子もいるので基本的なことを先生や友達と一緒に学んでいくのは悪くないのだと思います。ただ教科化をして、どう点数を付けるのだろうと思います。授業でだけおこなう事を言って、それ以外では…という子と先生のかかわり方が気になります。話を読んで、皆で思った事を話し合うスタイルなのだと思いますが、大人達が理想とする意見だけを尊重せず多様

な考え方、感じ方を容認してくれる授業になってくれればと思います。

- ⑤ ・光村図書の5年教科書に「子どもの権利条約」が載っていたのは良かった。
・教育出版5年教科書にボブスレーにのってポーズをとる安部首相の写真がのっていたが、なぜその写真を選んだのか・・・とってしまった。
・全体的に絵本のような教科書ばかりで驚きました。
- ⑥ 全てを読むことはできていませんが、気になった点について。日本文教出版の6年生“税金ってだれのため？”のページはギモンを感じます。納税の必要性、「国民の義務」であるということについては社会で学ぶことではないのでしょうか。税金をおさめない人がいること背景には様々な事情があるし、単純に道德心の問題ではないと考えます。
- ⑦ そもそも道德が教科化されるということがおかしいと思います。子どもも先生も大変になるばかりです。今からでもやめられるものならやめてほしいです。
- ⑧ 率直な感想ですが、教科書に出てくるお話はみんな優等生の答えが要求されているように感じました。おまけに物語の題名の上に徳目が書いてあり、子どもはこの話で何を学ぶかが分かり、自由な読みとりはできにくい。自分の本心や思いに反しても正しい答えを書かねばと思うだろう。これでは子どものすなおな思いや考えが出てこない。また、物語は、大人の頭で考えた文章で読んでいて感動したり心が動いたりする話が少ない。もっと、子どもの生の言葉で、本心で自分のくらしや遊びの中で起こった事を子どもが書いた作文などを教材にする方がよい。子どもたちの心の中まで、大人の考えを押しつけたり、それを評価することには大きな疑問を感じる。子どもの心のあり方や行動まで、ある方向に導いていくことにはならないか？
- ⑨ 光村図書の教科書を見た中では良いような気がします。子どもの権利条約や世界人権宣言をとり上げているところ、良いと思いました。教育出版社の教科書はやめてほしいです。学びの手引で（5年生ロレンゾの友達のところです）「三人の考え方のどれがいちばんすばらしいものだと思いますか。」と書かれているところがありましたが、1人1人いろいろな考え方があり、どれも尊重されるべきだと思うので、そのような順位をつけるような誘導は不適切だと思います。全部の教科書は多すぎて見られませんが、道德を教科にして成績をつけることはおかしいことだし、やめるべきだと思います。先生がどのように子どもたちを判断し、成績をつけるのか？いろいろ考えていても発表しない子どももいると思うし、心をもっと自由に豊かに育ててほしいです。
- ⑩ 3年生と6年生の教科書を見ました。①心のあり方を考える内容ではありますが、とらえ方が一つでないと感じる話もあり、教えるのが難しい教科になるなと思います。納税や義務について考えるようなテーマがありましたがこれらについては、社会科になるのではないのでしょうか。道德で語られることに違和感を覚えます。納税を逃れタックスヘイブンを大人たちがいる中で小6の子どもたちに納税するよう道德で働きかけるのはおかしいのでは。②いろいろ読み、光村図書の教科書がいちばんわかりやすかったように思います。バランスもよく、さし絵もお話もわかりやすかったです。③また、東京オリンピックについては希望あるテーマではありますが扱いが大きすぎるのではないかと感じてしまいます。

- ⑪ 光村図書の6年生に「世界人権宣言」をわかりやすい文で載せているのはいいなと思いました。(まあ、別に道徳でなくて社会でもよいのかもしれませんが・・・)どの教科書を読んでもぬぐいされない疑問は“道徳を教科にする”＝評価をつける、って一体どういうこと？こどものこころの中にずかずかと他の人が入って行って、本当に、いいのですか？ということです。常に“こう書かないと(言わないと)良い成績をつけてもらえない”と子どもに意識させることになってしまうのでは。評価をする先生も悩まれると思います。他の教科とは違うのです。
- ⑫ 全体として、公共心や勤勉さ、協調性、日本の文化・風土、年中行事に親しむことを重視した内容になっているように思いました。教育出版2年の教科書に世界の国旗・国家が載っていましたが、国旗・国家については日本国内でもいろいろな考え方がある中で、価値観の押しつけになるのではないかと思います。また、道徳が今後、評価の対象になっていくと聞きましたが、心で感じること、考え方は人それぞれ自由であり、特定のものさしで優劣をつけることは本来できないもののように思います。それをあえて評価するということは、国や学校の価値観を、従来よりも生徒に押しつける流れになっていくことで、自由にものが言える若者の育成を阻むことになるのではないかと危惧します。
- ⑬ 1年生用の分量がとても多いと思いました。また、国語との違いもあまりないように感じました。全体的に、特にこれがいい！と思うものが見つけれませんでした。
- ⑭ 1年間で34ものお話を次から次へと読んでいくのは、大変だと思った。1年生の道徳に「かぼちゃのつるが」が、殆どの教科書にのせられているのは、なぜでしょう？つるが、のびていくのは、わがままのせいではありません。1つの話のおわりに学びの手引きがつけられている教科書はよくない。子どもたちの心情を誘導しているところがある。学校図書の道徳の学習を始めようは、いろんな考え方をしているということが書いてあってよかった。6年生の「カザルスの島の歌」「おばあさんの新聞」は、いい内容だった。
- ⑮ たまたま開けてみた日本文教出版6年生P29「いじめと法律」というとりあげ方は大事だと思います。ただ、いじめは絶対悪としても、いじめる側にことばにできない理由原因があることもあるのでなぜいじめてしまうのか、いじめる側も「つらいことは人に話そう」という視点も入れてほしい。子どもはいじめはダメなことぐらい知っています。P42～の国旗をとりあげる戦争、皇国史観と深く関わる日の丸の負の部分にふれないのは地球人として育つ子どもたちに対して不誠実です。現にアジアなどの国々で日の丸を見せれば深い、むずかしい感情が湧いてくるのは事実です。ところで偉人がたくさん出てきますね。伝統とか「日本らしさ」とかが強調されているのでしょうか。(剣道、茶道など)P150の税金のこと、違和感大です。払えない人たちの事情とか全く考慮されてないし、一方的に悪者払い。現政権の口きき事件のように、国民の財産血税が不正に扱われていたり、ムダなことにつかわれていたりするのに。税金はみんなのお金だからこそきちんとした主権者教育が必要です。P166の詩に見られるように、強調されるのはあくまで「個人の内面」なのかと思います。みなで力をあわせて困難を切りひらいていく、協力する発想が大事かと思う。道徳の教科化にはそもそも反対です。心の中のことに評価をつけようとするとひずみが生れます。

<伏見中央図書館>全6件

- ① 人権，命，平和，自然，を守る，大切に，そして，グローバル化と流行語のように取り入れている今の日本の教育において，世界を，そして他国の人達をも取り上げている内容，及び，教科書は大変良いと評価したい。道徳の教科化について一言。（教科化になり）道徳に点数をつける，優劣をつけるという事は，その子どもの人格にも点数をつける優劣をもつけてしまうことと同じです。そんなむごい，酷い事を日々，教育現場で子ども達と信頼関係を築こうと努力し，奮闘されている学校の先生方に押しつける，教育行政に対し，腹立たしく大いなる怒りと失望を持ちます。道徳の教科化は見直して頂きたいと切に願います。

- ② 何社にも共通して使われている教材がいくつかあるが，どれも文科省が作った副読本「わたしたちの道徳」に入っていたものばかり。「わたしたちの道徳」は教科書ではありませんと言いつつ，多くの出版社が，その内容をそのまま教科書に取り入れ，結果的に国定教科書を作っているのではないかと思います。文科省に対する教科書会社の付度が透けて見えるようです。道徳そのものを子どもに教えることに異論はありませんが，ここ数年の，政治の流れと合わせて考える時，この国はどこへ行こうとしているのだろうと恐怖すら覚えます。

- ③ 「道徳」が教科になったと聞き，見にきました。まず，教科にするということが理解できなかったからです。“教科にし教科書で教える”ということは“ $1 + 1 = 2$ ”のように答えを合わすようになるということではないのでしょうか？自分でまわりの状況を考えて，自ら友だちたちと意見を重ねることによって，つちかっていく力とはあい入れないと思います。そういう意味でみさせてもらいましたがやはり“単元”があり，一つの答えに結論にむすびつくようにどの教科書も構成していました。ですから，教科書を使ってほしくないというのが今日の結論です。道徳を教えることはそれなりに必要です。でもその“教材”は子ども達の実生活の中で学校生活の中でその時々にくらでもあると思います。それにその時の子どもの実態に応じた形で考えて（…判読不能…）まさに教えるのではなく“みちびく”ように投げかけ解決の方向も多様であることを教えてあげることが今の“グローバル化”の中では必要なはずで。生活（…判読不能…）の格差が生みだされている現情の中で一つの考え一つのやり方というのは子どもにとっては逆につらいことになるかと心配しています。ぜひ，「教科」にするの意味を再考してほしいと新たためて思いました。

- ④ 日本文教出版，6年生きる力，の21章，杉浦千畝の活はすばらしい。日本政府の命令に従わず，人道的見地から自分の判断でユダヤ人の多くの命を救ったことは，人として何をすべきか，を示す，いい内容です。でも，同時に彼は戦後，外務省の職を失うことになった一命令に従わなかったことで外務省をつづけられなかった一国家の非道さも併せて書くべきである。なぜイスラエルからのヤド・バシム賞が45年後になったのか—彼は外務省を退職させられ，その行先も紹介もしなかった。イスラエルは彼を必死に捜し，45年後にやっと賞を与えた。—ということも，社会の現実である，という事実まで（…判読不能…）うべきだと思います。

- ⑤ 東京書籍，新しい道徳，6年21章「田中正造」はすばらしい。真に，弱い立場に立って，考え行動する人を紹介することはすばらしい。社会の中で，何を大切に，行動すべきかを示す，いい教材だと思います。

- ⑥ 道徳が教科化されると聞いて驚いています。日常的な子どもたちの暮らしの中で、おこること、見えることなど、生活全般の中で考えていくものだと思っていました。徳目によって設定された教材は、子どもたちにとって身近なことなののでしょうか。押しつけになりはしないのか心配です。価値観は多様であってよいと思います。子どもが道徳教科書を使って一つの価値観に方向づけられてしまわないか。道徳に教科書は必要ないと思います。

＜東山図書館＞全1件

- ① きみがひちばんひかるとき、光村図書、小学校6年生道徳6。他の本に比し世界的視点から、世界人権宣言、世界では戦争が続いているは、食べることさえできない貧困。人類のくらしと自然、動植物とかかわって共に人も生きることができる、広い視野から友人、家族、人間の道徳、自分も人も大切にすることこの教科書の目標を感じた。戦争がないのはあたりまえと思いたいが、憲法にあるように人々のためめ努力が必要。他の2冊は一つ一つはそうだと考えても系統性まとまりに欠ける。

＜吉祥院図書館＞全4件

- ① 時間の関係で6年生の教科書6社のみを閲欄しました。6年生という思春期の入り口の子ども対象ということで、とくにスマホ、ライン等のIT機器をうまく使い、マナー、ルールを守ること、人権侵害をしないこと、を考える教材が各社とも工夫されていると感じました。その中で、「学研」「光文」失われた日本の心をとれどもどす昔の日本人の美德、現代人のマナーの悪さを考えさせる、というような内容の教材が鼻につく。「教育出版」いじめをストレートに扱った教材、補助教材にすぐれたものが多い。「光村」—友達関係(いじめを含む)や人権について考える教材が多く好感がもてる。「あかつき」「東書」—総じて今までの副読本を踏襲している。全体を通して、幕末のいわゆる「偉人」—坂本龍馬、吉田松陰、勝海舟など、歴史的、世界的な見方によっては、いろいろにとらえることができる人物を一面的にとりあげていくことには疑問を感じる。
- ② 丁寧な授業ができそうな教科書ばかりでした。新たな教科ができて、多忙な先生方はもっと大変になるのだらうと思いますが、子どもたちのため頑張ってもらいたい。教育出版と日文出版の教科書が内容的に良いと思いました。良く工夫されていると感じます。東書や学図出版は選ばれても、教員と子どもの人間関係が何より大切だと思います。働き方改革が言われていますが、子ども目線で考えてください。よろしくお願いします。
- ③ 光村図書、廣済堂あかつきの1年生をみせていただきました。どちらもはじめに学ぶべきことが書いてあるので、このページでは何を答えるべきかが3てん示されているのだなと思いました。もちろん修徳させたいことがあるのですが、はじめから答が出ているように思いました。国語の授業とはちがい、物語から色々考えて、多様性を身につけるものではないように思いました。考えさせたいだらうが、考えさせない、答えありきのきゅうくつな時間になるのではないのでしょうか。毎回自分で色をぬって、又、レポートを書いて提出、親にも見せてチェック(サイン)をもらう。1年生には重荷ではないのでしょうか。求められる解答と子どもたちの気持ち、考えがもち違ったらどうなるのだらうかと少し心配する面がありました。子どもは敏感です。良い子をふるまわないか心配です。ありのままの自分を他者とのおりあいをつけて社会で生活するすべを身につけて。

- ④ 全部読むことはできませんでしたが、子供の立場で考えると楽しく読むことができる教科書が多いように感じました。先生方が授業をやりやすくなるような教科書を選んでいただきたいと思います。

<醍醐中央図書館> 全11件

- ① 教科化に賛成です。子どもたちに人としてもっと大切なことを学校で教えてほしい。
- ② 道徳の教科化について、道徳に答えが必要？評価の良し悪しは誰の視点で決めるものなのか？義務教育スタートの小学一年生を中心に見ました。同じような題材の中で、それぞれの出版社のどこまで踏み込むかが少しずつ違って興味深かった。注釈で、最初からこれは良くないという表現があるものは、とても不自然で不愉快でした。子ども達が伸び伸びと自由な観点で物事を見て、大人になっていく過程で議論はとても大事、そこに押しつけのような答えと評価は重要なのでしょうか…。どうか子ども達が窮屈でなく、個を大事にできる道徳でありますように。正直申しまして、教育出版の教科書導入は反対です！！
- ③ かがやけみらい1年生、P32 “かぼちゃのつる” 節度節制とあるがどう考えてもカボチャにこのような意志があると考えるのは非科学的。守らないと車にひかれる！！のもめちゃくちや残酷である。カボチャの例はそもそも変、節度節制を1年生にこのように指導するのはいかなるものか？何のために「きまり」—1年生の学校生活の中で考えるのなら別の問いかけがあるのでは？全てねらいとストーリーがこじつけである。
- ④ 教育出版社小学2年P114 ⑱大切な国旗と国家④国旗，国家を大切に②国家の（きみがよ）のいみ④国旗や国家を大切にす気もちのあらわし方・き立してぼうしをとって、れいをする。・国歌がながれたら、みんなで歌う。上記の部分は、戦争中に国民が国から強制的に守らされていたことを連想させられます。天皇のために戦争で命をなくす時も「天皇へイバンザイ！」と叫んで亡くなっていった人の話を聞きました。今は、天皇主権ではなく国民主権の世の中なのに、どうして、今、また、くり返すのでしょうか？不思議で理解に苦しみます。私たちひとりひとりの思いで、平和について強制ではなく考える教育こそが、今、大切ではないのでしょうか？道徳を教科に加え、成績をつけることにも反対です。「きみがよ」や、日の丸⇒礼をしたり、みんなで歌うことを文章で表現し、評価の対象にすることはやめて下さい。◎道徳を教科に入れることは、やめて下さい！
- ⑤ 教育出版はあいさつの仕方はこうあるべきおじぎはこうすると「よい子」の理想像を子どもたちに押しつけるものでしかない。こんなことで子どもたちをがんじがらめにしてどの子も伸びる生き生きとした学校教育ができるとは思えない。画一した人間像しか見えてこない。教育出版の道徳教科書は不適切であり採択すべきではありません。
- ⑥ 道徳が教科となることについて、疑問をおぼえます。教科書を作るよりも、その時々で教材を用意することはできないでしょうか。社会でおこったできごと、ニュース、身近なこと、地域のこと、今なら、インターネット、スマホの問題、食に関すること、色んな国の人に来てマナーに問題があることなど。おじぎの仕方をことこまかに書いていますが、必要でしょうか。日の丸君が代もおしつけになっている気がします。特に教育出版。かぼちゃのつるは、多くの教科書にのっていましたが、つるは自然にのびていくもので、ここで言っていること、

「わがままはいけない」ということにつなげるのは、ふにおちません。どのように評価していくのか、それも気になります。現場の先生たちの意見もよく聞いてくれるのか、何よりも子どもたちひとりひとりの意見もよく聞いてくれるのか、そこをお願いしたい。

- ⑦ ランドセルも入る大きさ、余り重くならない手軽さなどの配慮が重要なポイントと感じた。道徳の教科書に注目したが、西陣織やIPS細胞をとり上げられていて驚いた。松下幸之助や障害者アスリートも取り上げられていて、感心した。どの出版社も、イラストや画像に力を入れており読みやすかった。
- ⑧ 教育出版2年の最後のページは、国旗・国歌を強調しすぎではないか。先の戦争で複雑な思いをされている方もいらっしゃるので、小学生にあまり押しつけるのは良くないと思います。
- ⑨ 教育出版の教科書について、1～6年まで“日本を愛する”ページが必ずある。国際化が進んでいる現代は他様な国籍の人が日本に住み、日本の教育を受けている。よってこの日本を愛することを強調しすぎていることは不適切である。国歌、国旗の記載も同様。日本はこんなに素晴らしいと偏向愛国心をあおる。“心のおしつけ”が多くのエピソードに感じられる。「誰々の困ったところはどこですか？」いきなり困った事をしたという考えに誘導している。道徳とは自由闊達に意見を出し合い自身の考えを確立させるもの。家族の為を強調しすぎ、家族の能形も様々かつ自身の枝利。人生の選択に罪悪感させることにつながりかねない。よって教育出版の教科書を採択しないで下さい。
- ⑩ 廣済堂あかつき、学校図書6年の「星野君の二墨打」はせっかく星野君が自分で考えて行動したのに監督から罰を受けるのは、おかしいと思います。上の人の指示に従うことが正しいとは限りません。このような人を育てていては日本の未来は暗いと思います。
- ⑪ 科学的根拠のない話や出来過ぎた話、子ども騙しのような話では授業にならないと思います。教師が、児童に実態に合った教材で、児童の心にとどく授業をしてほしいです。教育出版5年の「下町ボブスレー」に安倍首相の写真がのっているが、政治的中立性の観点からもおかしいと思います。

＜北図書館＞ 全15件

- ① 道徳の教科書にノートが附属しているのが何社もありましたが、ノートに書くことに（文字をかく、作文することに）時間がかかる児童にとっては負担が大きいと思います。他の人と意見をかわし自分の変化をうながすことと文字にしてのこすことは別で、ノートにかかせるのは評価するためかと思います。胸にあふれる感動や心ゆさぶられて自分の考えが変化していく途中の子の気持ちを言葉にするのは大人にとってもむずかしいことです。ノートに字をうめるための活動を評価のためにさせるなら道徳のねらいとは別の方にはずれていくでしょう。というわけで、ノート付きの教科書はふさわしくないと考えます。（私は元教員です。）
- ② 教科化になれば、道徳の時間が充実すると思います。すべての教科書をみていませんが、光村、日文、あかつきが見やすく内容も良いと思いました。

- ③ 停年まで教師をしていた者として感想意見を書きます。道徳の科目を特別に上げることはよくない。日本全国、各地域、各学校でいろんな問題がたえず起きるし、授業に集中できない子、勉強がわからない子、問題をかかえたクラスは日々いろんなことが起きている。担任はそれが道徳の教材になります。担任はゆとりを持ってそういう子供達、クラスをどうしていくか考え、工夫し、子供を（判読不能）ことが大切！担任、学校が考える（判読不能）を持たせるべき。登場人物に今活躍中の若者を出すのはどうかな？（よくないようだ）やっぱり人間を大切にしたい人、命を大切にしたい人、杉浦千畝とかマザーテレサはいいと思う。教科書の中の絵はソフトな感じでよかった。教科書その物が大判で重い。
- ④ 子供が楽しく学習できそうな本ばかりでした。どの本を選ぶのかも大切ですが、選んだ本をどう使って子供の道徳性を育てていくのかがより大切であると考えます。
- ⑤ 1年の教科書みんなに「かぼちゃのつる」の話がのっているが、かぼちゃのつるがどんどのびるのは特性であって、わがままではないのにおかしい。教育出版の2年の教科書の「れいぎ正しいあいさつ」は2年生の児童に形だけのあいさつを押しつけるようで、ふさわしくないと。また、「せかいの人たちに親しむ」大切な国旗と国歌でも、押しつけ的で、特に最後のページの国旗、国歌を大切にしたいページは2年生にふさわしくないと。道徳とは、国が定めた価値（徳目）を押しつけるようなものではなく子ども1人1人に合わせてどう指導していくか、学級の実態に合わせて担任の教師が考え、導いていくものだと思うので、教科書を決め評価するという今回の学習指導要領の変更には反対です。
- ⑥ 「道徳」という言葉が必要でしょうか？あたりまえに考え、行動することだと思っています。小1・小6の本から自分が生きてきたものと変わりません。生きる力小6の中で、東京オリンピックのところ…なぜ日本の「日の丸」について書かれないのでしょうか。戦争という歴史があります。大切な歴史はどこにも書き伝えていく必要があります。きれい事だけではすまされません。又見にきたいです。
- ⑦ 全部読むことはできませんでしたが、1年生の分は四種ほど見ました。入学したばかりの子と思うと教材が多くてたいへんだと思いました。中で家族（父母きょうだい二人）が出てくる絵に、こういう形の家族でない家もおおいだろうにそういう子は思うか心が傷みました。どんな境遇の子も困らぬようにしなければと頼みたくなっています。5年生の2種と6年生の1種を見ました。物語の形をとっているのでもたのしく読みました。結末のない話もあり、それはそれでいいと思いました。話の意味を先生があまり問いかけずに、子どもそれぞれの心にそれぞれの形で蔵われているようにしていただきたいと思ったり、どんな感想が子どもから出ても、よしとしていただきますようおねがいします。お話がいろんな国、いろんな時代であることもいいと思いました。
- ⑧ 1年生の教科書はどの会社の教科書も「どうとく」臭が表に出ていて、説教調でよくない。こんな教科書など使ってほしくない。6年生の教科書は読み物としてはおもしろいのがあり、「道徳」などという表題を書かずに、教室の本棚に置いておけばいいだろう。大人がどう生きるべきか、人間として魅力ある生き方ができるかを絶えず考える生き方を子どものそばでやるのが何より大事だと思う。今の政治の世界は逆の道徳を子どもたちに見せる場になっており、彼らに道徳うんぬんする資格はない。

- ⑨ 全体的に内容が現在の子供達とは少しかけはなれたものが多いと感じました。副教材が付いている学校図書、廣濟堂あかつき、日本文教出版は、文章で記入するところが多く、書くことが不十分な低学年の子や作文が苦手な子には道徳は苦痛になると思われます。教材を読み、それをもとに意見を出し合い、考え合い、自分なりの価値を見だし、つくっていくなら、なんといっても感動できるもの、心を揺り動かすものがが必要です。その観点でみるのなら光村図書が最善ではないかと思いました。
- ⑩ 「道徳」が教科になるとの事ですが。「道徳」は、「ここらについて考える時間、思ったことを素直に話そう。」など「自分の思いや考え」というものです。これを教科として、評価したり成績をつけられていくのは、学校教育としては、ふさわしくないと思います。人として大切なことを伝えることは大事ですが、「思ったこと」「考え方」に点数がつくようなのは教育でやるべきではないと思います。教科書展示会で少し見ることができましたが、全てのことはわかりません。◎教育出版社の教科書は採用しないでください。このことはおねがいしたいことです。
- ⑪ 光村図書6年生用の①「まどさんからの手紙」と②世界人権宣言から学ぼう（谷川俊太郎訳）が良かったです。大人になってからも役立つものだと思います。一方で、他の教科書も読んでみて、教科書で学ぶ「道徳」には疑問を感じました。読み物としてふさわしくない内容や疑問を抱かざるを得ない取り上げかたをされている教科書もありました。「自由や責任」のことは、教科書で一方的に教え込むことにはならないかと感じます。子どもが主体的に学校生活の全体を通じて学んでいくように環境を整えることが大切だと思います。ノートへの記入で子どもを評価するシステムは絶対に採用してはいけないと思います。
- ⑫ 学研1年げんきでね、あげはくんの設問生物を大切にしている例としてあげはの幼虫を扱う事には少し疑問がある。(害虫として活動する場合があるから) もっと他の例を持って来た方がよかった(給食の食べ物だって農業やその他の人々とのつながりがあるはずです。)学研1年みらいにむかってならいごとを親がやらせる例は増えているのだと思いますが、必ずしもなくてもよいと思う。また何でも世界一になる事を目標としなくてよいと思う。光村1年草花、動物のせわ、家庭によってさせない場合もあるかも知れない(塾に行くことのほうが優先されたりする。)にほんのあそび最近の傾向はゲームで遊ぶことが多い中でこれらはとてもよいと思いますが、これらの遊びの中には相手が必要、場所が必要なのにそれがない場合がある。うつくしいところ自己犠牲の心というのは感心しない。それぞれがよく、又、他人に分けてあげるのもよし、ではないだろうか。光文1年たすけずにはいられないところ実社会において、個人がこのような事はできないし、又強制されてはならない。しかし、災害の時に何人かが交代してする仕事の人々はある。ちゃんとたつじん①ちゃんとあそぶということは…は親や、学校が考えなければならないこともあるのではないのでしょうか。遊ぶ相手があるか、場所があるか等。日本文教出版ゆうきを出して「やめろよ」大変よい点をとり上げている。ただし、これは学校や地域が「やめろよ」と言った子供が傷つくことがないようによく見ていなければならないと思う。
- ⑬ 道徳性(人間性)を育むのは、一教科ではなく、多面的な価値を知ることから、子供自身が、築いていくものであるから、あまりにも直接的に価値に近づけさせようとしているように読み取れる廣濟堂あかつき、学校図書、日本文教出版はふさわしくないと思いました。

- ⑭ 学研みんなの道徳6年について、スポーツを通して生き方を学ぼうでは羽生結弦、山下義韶、野口健をとりあげているが、全て成功した人の話なので、違和感がある。失敗する人がほとんどなので、その失敗について考えさせる方が自分のこととしてとらえられるのではないか。同じくラグビー日本代表のかがやきでも、成功体験を元にしてている。偉人物語ではないので、別の視点が必要ではないか。
- ⑮ 学校図書星野君の二塁打、根本として我々が忘れてはいけない事は集団生活で決められた約束、役割であってもどこかで不合理があった場合には変えられるはずである。それが民主社会の前提でなければならない。いろんな場合はあると思うので、そこらは柔軟でなければならないと思う。

＜洛西図書館＞ 全14件

- ① どの教科書も「いいこ」のおしつけになっている。子ども（人）はそんな単純な（判読不能）ではありません。道徳の教科化はやめて下さい。特に、光村図書と光文書院はこういふときにはこうしなければいけないという行動のおしつけがめだちます。光村図書と光文書院は採用しないでください。道徳の教科化で子どもたちにどのような評価をするのでしょうか。
- ② 道徳を教科として扱うことにたいへん違和感を感じて教科書をみました。低学年では、考えさせるというよりは、「よい子」の見本を示すような内容が多く、ひとりひとりの子どもの正直な気持ちが出しにくいと感じます。高学年ではスポーツ選手や偉人の話が多く、日常の中で子どもたちがおかれている状況とはかけはなれた例が多いと思います。日本の伝統文化などについても「道徳」として教えるという視点自体がおかしいのではないのでしょうか。国家に都合のよい子どもづくりが目的なら問題だと感じる今回の道徳教科化ですが、教科として扱うのではなく、日頃クラスの中で起こった問題やひとりひとりの悩みなどを話し合ったりすることで十分なのではないのでしょうか。日の丸のとり扱いが特に教育出版はきわだっていると感じます。教育出版の本は採用しないで下さい。
- ③ 絵本などで子どもたちが親しんできたお話が道徳の教科書にのっていることについてどうしてだろうと思いました。作品をたのしむことが大事なのに作者の意図とちがう形で使われるのは悲しい気がします。オリンピックなどスポーツで活躍した選手のこともその人の生き方として子どもたちがとらえたらよいことであって、道徳という教科で習うということに違和感を感じます。子どもの心を「～でなければならない」「こうしましょう」と誘導している気がします。
- ④ 道徳の本（教科書）にたくさんの絵本が登場していることにびっくり。絵本の作家は望んでいないことだと思う。作家の真意のないところで、道徳の教材にとりあげて欲しくない。本を読み終えた子どもの気持ちを評価できるはずはありません。教科書作成側の考えを押しつけることになるのではないですか？絵本や文学は、子どもの自由な気持ちで読み、感動させたいものです。
- ⑤ はっきり言って気持ち悪いです。“言わせたいこと”“やらせたいこと”がわかっている内容を、わざわざ授業とする意味があるのでしょうか。例題が多すぎると思います。1つの話

を掘り下げたり広げたりすべき題材も中にはあるのもったいないです。(震災、沖縄など)
「正解」をわかっているけど書けない子供達はたくさんいると思うのにどうにか評価しなくてはならない先生達にそれが伝わらなければ「低い評価」となるであろうことが納得できません。筆が遅くて時間内で書けない、わかっているけど自分ならそうできないだろうから正直に書こうとすると外れる etc…。裏表紙に2社ほど?! 未来を担うあなた達へ「税金を使って」無償で提供している—という記載があったのも気になりました。他の教科もそうでは?

- ⑥ どの教科書も生き方について手本となるよう書かれています。私には人生に手本など無いと思います。たとえ生き方が不器用で他人に迷惑をかけてしまっても、そこからどう学び、どう立ち直っていくかは個人として尊重されるべきと思うからです。教科書どおりでない自分や家族であってもそれを認めて次へ進めるような学校であってほしいし、道徳が教科として教育に入り込むことは、子どもにとって居心地の悪い学校となってしまうのではないかととても心配しています。
- ⑦ 来年度から道徳の教科書ができると聞いて見にきました。いい話だなと思う事例がいっぱいあげられていますが、現実はこのはずはないと思います。みんなもっと悩んだり、どうしようもなかったり、ドロドロしていることがいっぱいあると思います。家族の形態ももっと多様だと思います。おじいちゃん、おばあちゃん、両親、兄弟姉妹が仲良くというのが理想みたいに思われそうです。その以外の子が傷つかないか心配です。
- ⑧ 読み物としては、良い話が多いけど、学習の手引きなどで、方向性をつけられ、こうあるべき、これが正解です、みたいに書かれているのが、嫌です。道徳が教科になると言う事は、人の内心を評価されるという事ですよ。子ども達は、先生の思い通りの感想を言う事になり、ウソをついてしまう子もいるのではないのでしょうか。本当に教科として必要なのでしょうか。
- ⑨ 1年と4年の「どうとく」教科書を見ました。1年生からいつもここにこ周りの友達や、親、大人にまで良い子であろうとす内容になっているのを感じます。これでは、いつも周りに気をつかうばかりで内心が表に現れないのではないのでしょうか。自分の気持をとじ込め周りにあわせる子供、大人になってしまいかねません。自由な発想で創造性がなければ社会そのものの発展によくないと思います。今までの自立性や豊かな心の考え方はどこへいったのでしょうか。
- ⑩ 「いいお話」がたくさん載っています。が、「こうあるべき」「こうあるといい」という結論が見えすぎていて、考えさせる課程が大事にされていないように思います。家族構成ひとつとっても、祖父母、父母、兄弟姉妹がそろっている家庭ばかりではないはず。「ちがいを認め合う」ことこそ、人間として基礎にすることではないのでしょうか。ひとりで心の中で考えて「良い子」になっていくという話が多くて、びっくりです。「ことば」の力を信じ過ぎているようにも思います。
- ⑪ ノートで友だちのよいところをさがしましょうという内容は、いじめにあっている子どもにとって、どのように書くことができるのでしょうか? 家族のあり方についても、片親の子もいれば両親と暮らせずに施設で生活していたり、ネグレクトで苦しんでいる子もいる。多種

多様な現状に沿っていない。いっしょうけんめいやってできなかった子をダメかのように思わせる内容は子どもの心を育てるという観点から間違っている。上の者には無条件で従わせるための内容が多い。あかんでしょう。皆、同じ考え方に持って行かせようとする（ノートなど）のは、道徳という教科として方向が違う。教育出版については、教え方が偏りすぎています。日の丸、阿部さんなど思想がはいりすぎではありませんか。使用すべきではありません。

⑫ 教科書を見ましたが、子ども達が回答するのに、それぞれの意見を出して共に考えるというよりは、模はん的な回答をさせるよう誘導しているように感じる。特に教育出版は強く感じます。大人社会も多様化している中で、道徳を教科にするのはどうかと思います。

⑬ 障害、性差、人種、貧困、紛争、干ばつなどによる移民など多様性を認めあえる社会がひろがるなか、自分のよさを認め、学校、家庭、地域のなかでそれを伝えられる、また、お友だちのよさを認められるそういう関わり方を自然と身につけ、豊かな人に育ってほしいです。「わたしのよさ」（教育出版）という単元は、それができる内容であると感じました。法やきまりを守ることの大切さと、その理由を教わることは大切と思いましたが、低学年では、生活科との共通部分もあるのでは感じるところもありました。日本の伝統文化については学びつつ、文化生活様式の異なったお友だちと前向きな関わり方ができる力を合わせて課題解決にとりくめるか、また、高めあえる存在として他者と向きあえるそういう姿勢、こころを育てる教科であってほしいと感じました。編集趣意書は読みましたが、実際子どもがどう評価されるのか疑問があります。

⑭ 道徳が教科化されるということで、教科書を見にきました。心（道徳）のノートをどのように活用していくのかは考える必要があると思いました。道徳の指導にあたってどのような指導が教師にされるのでしょうか。各教科もそうですが、教師の力量により大きなちがいをうむのではないのでしょうか。以前に。父母への感謝のことばを書くということですら、ギャクタイを受けている子どもにとってはつらい作業になるとききました。どのようにかいたらいい評価がえられるというのではなく、本当にいい結果をうめるのかを考えた指導が必要です。日常的に子どもをよく見ていないと感想文や道徳のノートに書かれたものだけをあてにしてはいけないと思います。スクールソーシャルワーカーの配置などでいねいにみてほしいと思っています。